

## オオムラサキに遇えるかも・・・

太田慶子（千葉市）

日時：2010年8月1日(日)10時30分～12時 天候：晴れたり曇ったり

参加者：大人14名 子ども13名 計27名

担当指導員：太田慶子 和仁道大

題の「**遇**えるかも」の「**遇**」の漢字を用いたのにはわけがあり、この字には「運がよければ」という意味を込めてある。オオムラサキはオニヤンマと違いテリトリーの往復などやってくれないし、飛んでいたら動きが早く、しかも飛んでいても止まっても名称のような紫色には見えないし、高いところを飛ぶので見つけにくいからだ。

さて当日、空気が淀んだ蒸し暑い曇天の中、朝の下見時に虫たちの動きがあまり見えず、それなら・・・と、モニタリング調査の折に見つけた樹液の出る若いクヌギ(誰かが傷をつけて樹液が出るようにしたらしい)のところに行くと、カブトムシにノギクワガタ、カナブン3種、それにアカタテハ・・・そして、なんとオオムラサキのメスが飛び出した。別のところでもオオムラサキが飛ぶのを見かけたので、本番でもきっと出てくれると期待した。

親子連れがほとんどの参加者を前に、オオムラサキの実寸大のもの(表翅をコピーしてクリーム色の裏翅を貼り付けたもの)を見せながら、こんなふうには実際は小高い林縁を・・・すばやく「パタパタ」と羽ばたき・・・「スウッ～」と滑空飛行します、と実演。「どうですか、何色に見えますか」と尋ねると、子どもはすぐに「黄色」と答えてくれた。そう、オオムラサキは飛んでいる時、黄白色に見える。



紙で作った見本

「オオムラサキは国蝶とされているが、樹液がチョウのご飯ですから、若いクヌギやコナラなどの雑木林があり、幼虫が食べるエノキがあること、この2つがないと生きていけない。そして、今は樹液が出てカブトムシやクワガタ、スズメバチが集まるような元気な雑木林が少ないので、珍しいチョウになっているのです」と話した。

歩き出すと、ヒグラシの抜け殻、きれいなハグロトンボ、キアゲハ、ナガサキアゲハ♂、ツマグロヒョウモン♂、ゴマダラカミキリ、サトクダマキモドキ♀、ハサミツノカメムシ♀、バツタ類の幼生、オオシオカラトンボがつながったもの、オニヤンマ、たくさんのシオカラトンボなど、次々に登場するが、ときどき林縁に目を遣っても黄白色のはばたきが見えない。そこで、樹液の出る若いクヌギのところにちよつと先に行ってみると、カブトムシのそばに翅を閉じたオオムラサキの♂らしいのがいた(翅を開かないが、♂は♀に比べて小さい)ので、参加者を呼んだ。さらに参加者が、少し行ったクヌギに見やすいところにいる大きめの♀らしいのを見つけてくれた。じっくり見た後飛ばすと、地味な茶色っぽい色だった。

予想のような「パタパタパタ・・・スウッ～」と飛ぶ様子は見てもらえなかったが、参加者は全員オオムラサキを見たのは初めてで、「見たかったオオムラサキを見られてよかった」「他にカブトムシやクワガタ、カナブンも見られてよかった」「子どもにいろいろな生き物を見せてもらえてよかった」といった感想をいただけ、ほっとした。